

羽生市長賞

食品ロスから学ぶ税

羽生市立東中学校

三年 松本 桃佳

学校の給食。私はこの時間に必ず心がけていることがある。それは食べ残さないことだ。たとえ苦手なものが給食に出ていても、なるべく食べるようにしている。なぜなら、食品ロスを減らしたいと思っているからだ。

まず、食品ロスは大きく二つに分類することができる。各家庭から発生する「家庭系食品ロス」と飲食店での食べ残しなどの、事業活動を伴って発生する「事業系食品ロス」だ。そして家庭系食品ロスは、毎日の生活の中で一人一人が意識して減らしていける食品ロスである。しかし、食品ロス全体の約半分の量を占めている。

食品ロスの課題点として、環境に悪影響を及ぼすことが主に知られている。しかし、税金にも影響を及ぼすことはご存知だろうか。実は、私達が普段支払っている消費税などの税は食品ロスの処理にも使われているのだ。

大人達は増税について悪い意見を言っていることが多いが、よく考えてみてほしい。もちろん税金の使い方にも良くないところがあると思う。しかし、まずは自分の食生活から見直してみしてほしい。食品ロスは一人一人が食べれる量を買う、消費期限を守って食べるなどのことを意識するだけで減らせるものな

のだ。そして、みんなが意識することができれば、食品ロスに使う予定だった税金を他のところに回すことができるかもしれないのである。つまり、税金は一人一人の食品ロスに対する意識によって、減らすことができる可能性があるものなのだ。

税金というものは様々なところで役立つ一方、少子高齢化などによって使う税金も年々増えている。私達は少子高齢化をすぐに止めることはできない。しかし、一人一人の食品ロスに対する意識により、使うべきところに多くの税金を回し、使う税金を今までより抑えられる可能性がある。これからも地球で過ごすため、税金をなるべく減らすためにも、一人一人の食品ロスに対する意識や心がけが必要である。

そして、私は「いただきます」という言葉にこれまで以上に感謝を込めて、これからも食事をしていきたい。

行田税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞「金賞」

私の幸せをつくる税金

羽生市立西中学校

三年 藤本 啓太

「また来よう。」
私をそう思わせてくれる図書館は、私にとってとても大切な場所だ。

私が初めてそう思ったのは、学校の友達に紹介され、後日友達と一緒に勉強しに行ったときだ。私は家ではスマホやテレビなどの誘惑に負けて勉強や作業に集中できないことが多い。しかし図書館ではそのような誘惑がなく静かな空間だということもあり、自分でも驚くほど集中できた。気がつけば図書館の営業終了の時間になっていたということもよくある。図書館から帰るたびに有意義な時間を過ごせて嬉しい気持ちと、「また来たい。」と思う気持ちがかみ上げてくる。私はこうして、図書館が好きになり、定期的に行くようになった。

しかし、こうして友達と図書館で勉強できるのは当たり前のことではなく幸せなことなのではないかと思った。そしてそんな幸せを作ってくれているのは図書館にも多く使われている税金なのではないかと思った。そう思うと私は、図書館で税金がどのように使われているのか気になり、タブレットに手を動かした。

調べてみると、図書館では、建物の建築費や机や椅子などの設備、貸し出すための本、働く人の給料など多くのことに使われているという。つまり、無料で図書館に入れるのも、無料でいくつかが本が借りられるのも、無料で場所を借りて勉強できるのもすべて税金のおかげということである。

私にとって税金は、消費税という機会でしか直接税金を払う機会はないものの、その消費税でさえ鬱陶しく感じる事があった。「消費税がなければもっと安く買えるのに。」と思うことがあり、正直に言って税の大切さを理解していなかった。しかし図書館の利用を通して税金が私の身近な幸せを与えてくれると知った。

さらに言えば、私が図書館のすばらしさを知れたのは私の友達のおかげであり、その友達に出会えたのは学校のおかげで、さらにその学校があるのは税金のおかげである。だから、今の私の日常があるのは税金のおかげであり、どんな幸せも元をたどれば税金が生み出してくれているものだと思う。

私は、図書館、学校の友達、そしてそれらを生み出してくれた税金すべてに感謝している。これからも私は、図書館に行き続けたいし、それが税金のおかげであるということを常に心に留めておくようにしたい。図書館がいつまでもすばらしい場所であり続けるように、と。

行田税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞 「銀賞」

生活を守る税

羽生市立南中学校

一年 藤井 ビクトリアメイ

小学生の妹に「税って何？」と聞かれたら私は上手く説明できないだろう。「人々の生活や国全体を支えているものだよ。」と以前の私なら答えるだろう。これが私の税に関する精一杯の知識だった。しかし、私の税に関する知識は最近向上している。それは、私のママがあまり日本語を理解できない事がきっかけだった。だから私は小さい頃から、通訳をよくしている。ある日、「この漢字なんて読むの」と給料明細を指さす母。給料明細を見ると色んなものが控除されていて驚いたのと同時に現実を突きつけられたような感じがした。母が指さす先には「所得税」と「住民税」があった。漢字は読めるが、説明は出来ないと一瞬で思った。幸い姉がいたので母国語で説明することが出来た。この時、私はよくわからない悔しさに襲われた。私は中学生になって、大人になれたような気がしていた。しかし知識はまだまだ浅いかであり、子供なのだと思いきらされたからだと思う。その日のうちに私は税金について調べることにした。調べていくと自分の身の回りにこんなに様々な税金があるのだと知った。インターネットには「消費税」「住民税」「所得税」が一番身近であると書いてあった。たしかに消費税は、買い物をする際に必ず払っているので知らない人はいないだろう。住民税は地

方に納める地方税で、所得税は国に納める国税であると理解出来た。住民税と所得税は給与から毎月控除されているが、それを知っている人はわずかだろう。給与を貰ってからでない意識する機会は正直無いだろうと思わず思った。私もついさっき母の給与明細を見て初めて知った一人であったからだ。ゆえにこうして作文で税金について情報を発信出来ることを嬉しく思う。

働き始めている大人が納税の義務を果たすことによって社会は成り立っている。「税金は無駄だ必要ない」と時々耳にする。確かに消費税は近年10%になり、使うお金がふえてしまうことは事実である。しかし「税金は未来を繋いでくれる」と私は思う。小さい子供から高齢者の方までの豊かな生活を守ってくれる。税金がない世界を考えると分かりやすいのでは無いだろうか。医療費が全額自己負担になり、お金持ちだけが治療できたり、教育を受けられる子供が減ったりなど、考えるだけでとても恐ろしくなる。税金は国民を苦しませるためにあるのではなく国民の幸せの為にある。税金の奥深い事実、大切さを知ってほしい。

行田税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞 「銀賞」

野球を通して見えた税金の大切さ

羽生市立西中学校

三年

渡邊 創太

僕は野球のクラブチームに所属しています。毎日の練習は大変だけど、仲間と一緒に汗を流すのは本当に楽しいです。僕は先日、野球を通して税金の大切さに気が付きました。

きっかけは、先日行なわれ兄の高校野球の選手権大会でした。その大会は市の施設で行われて、立派な球場で試合ができました。試合後、父が「こんなに素晴らしい施設で野球ができて幸せだね。これも税金のおかげだよ」と言いました。正直、最初は「えっ税金？」と思いました。野球場と税金にどんな関係があるのだろうか？そう思って、帰宅後に調べてみると、驚くことばかりでした。市営や県営の野球場は建設費も維持費も税金でまかなわれているそうです。グラウンドの整備や、ナイター設備の電気代、それに管理人さんの給料まで、全部税金が使われているのです。考えてみれば、僕たちが毎日練習しているグラウンドも税金で作られたものです。部活動で使う道具も、学校予算の一部として税金から出ているそうです。そう考えると、僕たちの野球生活は、税金に支えられていることがわかりました。でも、それは野球だけではありません。地域の人たちが楽しむ公園、お年寄りが利用する福祉施設、みんなの安全を守る消防署や警察署。街を歩いてみると、税金で作られたものだらけなん

です。先日、友達と遊んでいるとき、救急車のサイレンの音を聞きました。その時、「あ、これも税金で動いているんだ」と思うと、なんだか不思議な気持ちになりました。税金は、決して目に見えるものばかりではありません。でも、僕たちの生活のあちこちで、大切な役割を果たしているのです。これからは、ただ野球を楽しむだけでなく、この環境を作ってくれている人たちへの感謝の気持ちも持ちたいと思います。そして将来自分が税金を納めるようになったとき、今の気持ちを忘れずにいたいです。

税金は、僕たちの夢や希望を支える大切なものなんだと、野球を通して学びました。これからも、野球にも勉強にも一生懸命に取り組んで、将来はこの地域に貢献できる大人になりたいです。

行田税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞 「銅賞」

税金の使い道

羽生市立南中学校

二年 今井 さくら

よく考えると、私は自分の住んでいる市の税金について全く知らないことに気づいた。

調べてみると、羽生市の税金の使われ方は、市のホームページの「市の財政」に「歳出・歳入」として、一年毎にまとめて掲載されていた。私は、議員の人達が収入をごまかしているというニュースや裏金についてのドラマなどを見たことがあったので、誰にでもわかる場所に、税金の使われ方が載っていたことにとても驚いた。そして、無意識のうちに税金について悪いイメージをもっていた自分にも驚いた。

いくつかあったデータの中で、一番古い二〇一五年、コロナ禍の二〇二〇年、直近の最新データの二〇二二年の三つについて、歳出の情報を一覧に書き出して、比較してみた。

グラフにしたとき、一番大きく差が出た費用は、二〇二〇年の総務費だった。二〇一五年と比べて二倍以上だった。詳しく調べたところ、特別定額給付金（新型コロナウイルス感染症緊急経済対策）が出たからだだった。それ以外の歳出は、大きく変化しておらず、多少の増減はあるが、それぞれの費用の割合もほとんど同じだった。

その中で、特に気になったのは、民主費の割合の大きさと教

育費の減少だ。民主費は、主に障害者や高齢者に対する福祉の充実や子育て支援対策に使われる費用だ。社会保障のリーフレットで、日本の歳出トップは社会保障だと読んだことがあり、羽生市でも二〇一五年から割合が一番大きく、同じように言えるだろう。

一方、民主費に対して教育費は割合も小さく、二〇二〇年のコロナ禍の後も回復することなく減少していた。

市の歳出を調べてみて、コロナのような、自分たちの個人ではどうにもできないことが起こったときには、市や国が助けてくれているのだと改めて知った。自分がしている生活が税金によつて助けられていることをありがたいと思った。

教育費が少ないことは、最初、教育に力を入れていないのかと不安に思ったが、主に学校等の運営費だと説明にあったので、少子高齢化が進んで児童生徒数が減っているからだろうと感じた。

将来、今のまま少子高齢化が進んでいくと、民生費の割合はより高くなっていくだろう。その場合、他の費用が削られるのであれば、不便になってしまうだろうし、費用を賄う為に税金が高くなっていくと思うと、不安になった。

ただ、調べたことで、知らないまま不安になっていたときより、費用の使い方次第で、今と同様に便利に暮らすこともできるのではないかと考えられるようになった。これからも、市の財政や国の財政について興味をもっていきたい。

地球温暖化と二酸化炭素

羽生市立南中学校

二年 入江 麻央

「県内に熱中症警戒アラートが発令されています。不要不急の外出を控え、熱中症に注意しましょう。」

これは、私の住んでいる地域で流れる市内放送だ。この放送は、近年よく聞くようになった。また、強い台風や集中豪雨などの異常気象による災害も頻発している。これらの原因は、地球温暖化の進行だと考えられている。地球温暖化が進む要因は、石油や石炭などの化石燃料の燃焼などによって排出される二酸化炭素が増加することである。日々の生活の中で、一番身近にあり、二酸化炭素を多く排出しているのが自動車だと私は思う。私は、家族で旅行などに行くときは、車で行くことが多い。それは、利便性が高いからだ。他の交通機関を使うときに比べてたくさん荷物を持っていくことができる。また、出発地から目的地まで直接移動することができる。だが、二酸化炭素の排出は大気汚染の原因となり、地球温暖化を促進させてしまっている。この対策方法として作られたのが、自動車税・軽自動車税である。

自動車税とは、都道府県、市町村の道路に関する費用を集めるために作られた税金だ。この税は、二酸化炭素の排出、公害などの社会的費用にかかる行政需要の原因となっている人への負

担を求めるものとなっている。私は、この税があることによつて、二酸化炭素を防ぐことができると思う。自動車税の目的が二酸化炭素の排出を抑制させるためだからだ。日本の電気自動車の普及率は世界でも少なく、約五パーセントとなっている。

二〇三五年には、全ての自動車を電気自動車にするという目標が立てられている。電気自動車の普及率が上がらないのは、充電ステーションが少ないからではないかと思う。私の住んでいる地域周辺では、あまり見ないからだ。身近に充電場所があれば、電気自動車への乗り換えがしやすいと思う。

郊外の地域では、都市部よりも交通機関が充実しておらず、利便性が悪い。そのため、自動車を使う機会が増えてしまっている。私は、郊外の地域の交通機関を整備したり、電気自動車の普及を促進することが必要だと思う。

自動車は、私たちの生活を豊かにする乗り物であることには変わりない。しかし、地球温暖化対策について考えていかなければならない。